

2011年3月期（2010年度） 事業の業績（連結）

2011年3月期 連結業績

(単位：百万円)

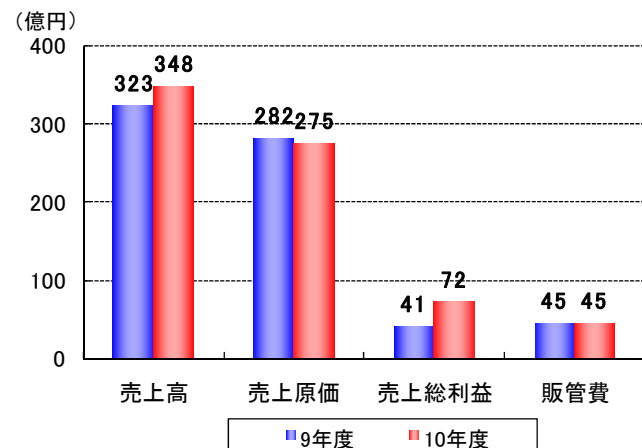
損益	10年3月期	11年3月期	前年同期比
売上高	32,320	34,847	108%
売上原価	28,219	27,590	98%
売上総利益	4,100	7,257	177%
販管費	4,594	4,516	98%
営業利益	△ 493	2,741	-
経常利益	△ 741	1,702	-
当期純利益	964	1,245	129%
1株当たり 純利益 (円)	21.39	27.66	129%

業績の特徴

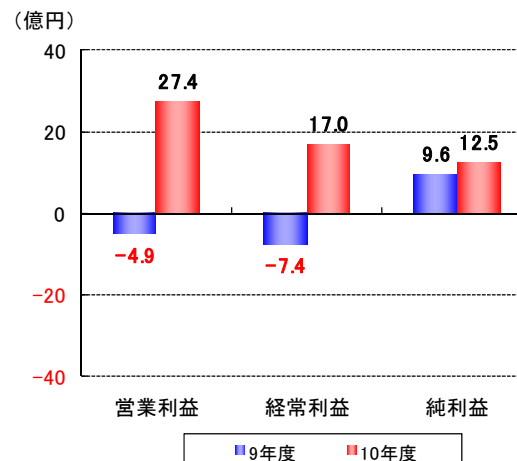
特徴

1. リチウムイオン電池用正極材料が、電気自動車（EV）向けに拡大しました。また、カートナー用キャリアが成長するとともに、セラミックコンデンサ用誘電体材料が新規に立上がりました。その結果、売上高は景気回復と合わせて、昨年度に比較して8%増加して348億4,700万円となりました。
2. 更に、原燃料コストの低減、生産体制の効率化などに引続き取組んだことにより、売上原価・販管費ともに前年度比2%低減し、営業利益率は7.9%へと大きく改善されました。
3. 以上より、営業利益は27億4,100万円、経常利益は17億200万円、当期純利益は12億4,500万円、一株当りの純利益は、27.6円となりました。

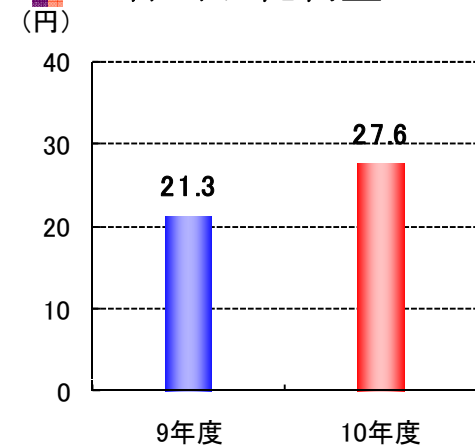
売上高、販管費等



利益



一株当り純利益



セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	10年3月期	11年3月期	前年同期比	包含事業
機能性顔料	12,105	14,035	116%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材	13,328	14,998	113%	電池材料、電磁環境部品/材料、磁石/磁石材料、電子印刷部品、半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング	6,876	5,813	85%	環境エンジニアリング、土壌浄化用触媒 など
合計	32,310	34,847	108%	

1. 機能性顔料は、カラートナー用キャリアを始めとした販売の拡大と景気回復とにより、前期比+16%の増収となりました。
2. 電子素材では、リチウムイオン電池用正極材料がEV用に拡大し、誘電体材料も新しくビジネスとしてスタートしました。景気回復と合わせて、前期比+13%の増収となりました。
3. エンジニアリングは、ビジネスサイクルが長いため、リーマンショック後の設備投資意欲の減退の影響を今期受けており、前期比△15%の減収となりました。

2011年3月期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	10年3月期	11年3月期	増減
流動資産	23,512	23,062	△ 450
固定資産	32,186	33,073	887
流動負債	21,144	22,567	1,423
固定負債	12,681	10,873	△ 1,808
少数株主持分	383	523	140
株主資本	21,968	23,017	1,049
総資産	55,699	56,136	437
現金/同等物	6,583	4,772	△ 1,811
キャッシュフロー	△ 356	△ 1,811	△ 1,455
ROE (%)	4.4	5.4	1.0

(注)ROEは株主資本合計に対して計算したものです。

貸借対照表科目の特徴

1. 固定資産は、電池関係、誘電体材料関係に向けた新規設備投資等で8億8,700万円増加しました。
2. 負債については、17億3,100万円の借入金及び社債の返済を進めました。一方では、売上拡大に伴う流動的債務が拡大するため、流動負債と固定負債を合わせた負債合計は、3億8,500万円の減少となりました。
3. 株主資本については、12億円を超える純利益により10億4,900万円改善しました。その結果、自己資本比率が0.9ポイント改善して39.5%となりました。
4. キャッシュフローは、借入金の返済により14億5,500万円減少しています。
5. ROEは1.0%改善し5.4%となりました。

主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	10年3月期	11年3月期	10年3月期	11年3月期	
富士化水工業株式会社	7,044	6,084	71	△ 232	12月末
戸田マテリアル株式会社	2,760	6,350	160	444	3月末
戸田ピグメント株式会社	1,529	1,433	104	30	3月末
東京色材工業株式会社	1,412	1,966	266	395	3月末
戸田工業ヨーロッパ GmbH	849	1,067	△ 3	7	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	664	1,098	96	122	12月末

【増収増益】

1. 戸田マテリアル株は、EV向けへのリチウムイオン電池材の売上拡大により、大幅な増収増益となりました。
2. 東京色材工業株は、需要の拡大が進み、前期に続いて大幅な増収増益となっています。
3. 戸田工業ヨーロッパ GmbHは、電池材中心に売上をのぼし、経常利益は黒字転換しています。
4. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、中国国内の堅調な需要に支えられて増収増益が続いています。

【減収減益】

1. 富士化水工業株は、景気回復傾向のなか民間設備投資の動きが鈍く、売上が伸び悩んだ事に加え、工事の採算も悪化しており、大幅な減収となり遺憾ながら経常赤字となりました。
2. 戸田ピグメント株は、円高による低価格帯での海外勢攻勢もあり苦戦しました。

設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	10年3月期	11年3月期	前年同期比
設備投資額	1,757	3,362	191%
研究開発費	1,564	1,681	107%
減価償却費	2,221	2,450	110%

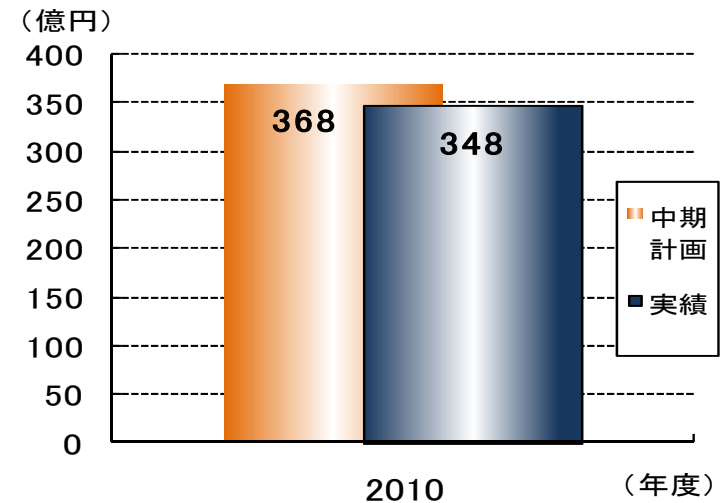
1. 設備投資は、リチウムイオン電池材料の生産設備を中心に行いました。前期比91%増となっておりますが、これは前年度がリーマンショックの翌年で、投資を抑制していた影響となります。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分し、前期比7%増加させました。
3. 減価償却費につきましては、前期までに実施した設備の稼働が順次始まり、前期比10%増加しています。

経営成績改善の主な背景

背景

1. リーマンショック直後の経済縮小から、経済全体が回復した。
2. 電気自動車（EV）用へのリチウムイオン電池用正極材料が本格的に動き出した。
3. 誘電体材料などの新しい材料が動き出した。
4. 業務の効率化、機構改革が経費の削減に寄与した。

売上高



利益

